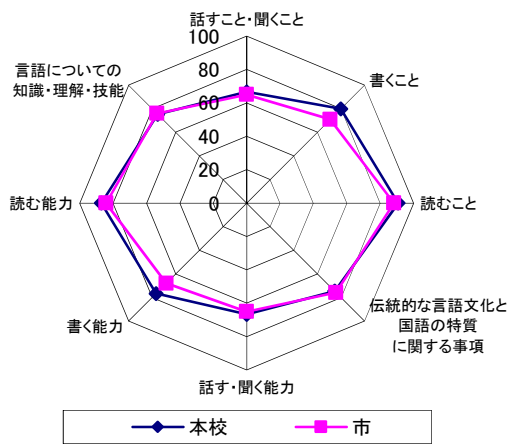


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.7	65.0	62.9
	書くこと	79.9	70.9	71.3
	読むこと	90.8	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.6	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	66.7	65.0	62.9
	書く能力	76.7	68.0	68.0
	読む能力	87.1	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	75.3	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

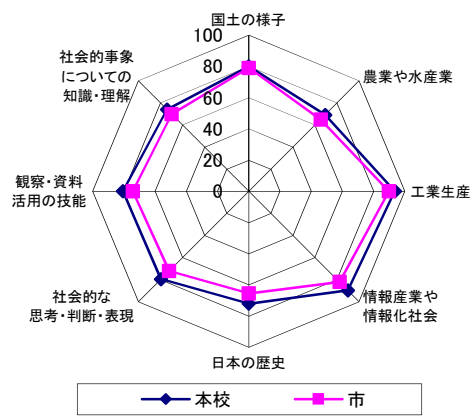
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・本校の平均正答率は66.7%で、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞くことができる」というねらいの問題に関しては、ほぼ市と同程度の正答率だった。 ●「司会者の役割を理解して計画的に話し合おうとすることができる」をねらいとした記述式問題では市の平均は上回ったが38.5%の正答率だった。	・話し合いの観点に沿って意見を聞くことは、おおむね身に付いているが、意見の提案という分野が弱く、筋道の通った提案の仕方を学習させる必要がある。 ・議題や課題に沿った意見を書かせる活動を取り入れ、論理的な思考につなげるとともに、それを話すことで表現する力も育みたい。
書くこと	・本校の平均正答率は77.9%で、市の平均を9ポイントと大きく上回っている。 ○全ての設問において市の平均を上回っており、特に「二つの案件のうち、どちらがよいと思うか」を記述する問題では100%の正答率だった。 ●「資料から文章に書き表す内容を理解する」ことをねらいとしたものでは市の平均は上回ってはいるが59.0%の正答率である。	・資料を活用し、適切に意見を文章化する力を育むために、事実に対して意見を書く学習を繰り返す行う。
読むこと	・本校の平均正答率は90.8%で市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○説明文の内容を的確に読み取ることにに関して、3設問中、全ての設問で市の平均を上回っており、100%の正答率だったものが2問ある。 ●物語の内容を読み取る設問では4設問中、市の平均より低いものが2問あり、その内1つは8.7ポイント下回っている。	・登場人物の心情を文章から読み取り、想像する学習に取り組ませる。 ・場面描写を抜き出させたり、書き写したりして、情景描写と人物の心情のつながりについて習熟する学習に取り組めるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・本校の平均正答率は74.6%と市の平均を1.2ポイント下回った。 ○「三字熟語の構成」と「国語辞典の使い方」に関する理解度は90%を超えている。 ○文の構成に関する理解度は市の平均を5.8ポイント上回っている。 ●漢字の読み書きの理解度は第5学年の配当漢字の読みを除き、全て市の平均を下回った。	・前学年までの配当漢字の習熟をねらい、辞書の活用を習熟と合わせて行うことにより、言葉への理解を深められるようにしたい。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.0	79.1	74.9
	農業や水産業	69.2	65.1	63.7
	工業生産	93.6	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	89.7	82.2	73.1
	日本の歴史	72.0	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	79.6	72.2	69.0
	観察・資料活用・技能	80.7	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	74.1	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

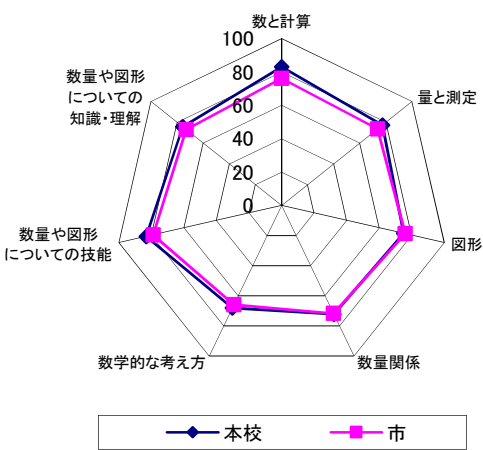
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・平均正答率は、80.0%で、市の平均を1ポイント上回っている。 ○日本周辺の海洋名の理解度は市の平均を12ポイント程度上回っている。 ●国の名称や国土についての理解は市の平均を若干下回っている。	・国内の地理についての理解を深めるため、白地図等を活用して定着を図る。 ・いろいろな国への関心を深め、地図上での国の場所や大陸などの名称について、視覚的資料を取り入れるなど、継続して学習できる環境を与えたい。
農業や水産業	・平均正答率は、69.2%で、市の平均を4ポイント上回っている。 ○日本のコメ作りの問題点について、複数の資料を読み取り考える活用問題では、89.7%の正答率で、市の平均を11ポイント上回っている。また、食料自給率と食料輸入額の関係について、複数の資料を読み取る問題でも、87.2%の正答率で、市の平均の5ポイント上回っている。 ●日本の食料確保に関する問題を読み取る活用問題においては、38.5%の正答率で、市の平均を1.88ポイントも下回る結果になった。	・日本がなぜ食料確保に課題を抱えているのかを、地理的な観点から考えさせる。 ・知識的な観点は十分定着していても、そこから自分の考えを見出すことに慣れてきたが、それらを表現することが苦手なので、資料から、読み取ったうえで、自分の考えを持ち、表現できるような機会を多く与えたい。
工業生産	・平均正答率は、93.6%と高く、市の平均を4ポイント近く上回っている。 ○工業製品の種別分類については、89.7%の正答率で市の平均を若干を上回っている。 ○工業生産従事者の工夫や努力に対する理解や活用は97.4%の正答率で、非常に高い。総合的な学習の時間、「働く」ことについて考えていることが関連していることも考えられる。	・日常生活と密着して考える機会を与えたり、日本の工業生産に対する変化にも対応できる柔軟な考えがもてるよう、話し合いの機会を設けたりしていきたい。
情報産業や情報化社会	・平均正答率は、89.7%と、市の平均を7.5%上回っている。 ○資料活用の設問においては92.3%の正答率で、市の平均を13.7ポイント上回っており、情報産業への理解の深さがわかる。 ○マスメディアの種類についての理解も87.2%の正答率で、市の平均を上回っている。	・情報の伝え方と、メディアとの関連に触れ、興味関心を持たせた上で、種類について学習させると共に、情報化社会の有益性と危険性を十分理解できるようにする。
日本の歴史	・平均正答率は、72.0%と、市の平均を7.4%も上回っている。 ○どの時代においても、ほぼ市の平均を上回っており、特に、資料から読み取ったことを表現する問題では、市の平均を約25ポイント上回っている問題もあり、歴史事項に関する関心の高さが学習の定着につながっていることを感じる。 ●一方で、縄文時代の生活や室町文化など知識の面で市の平均を下回っているものもある。	・時代ごとに学習した内容を、比較したり関連付けたりしながら、歴史について多面的な見方ができるような学習を工夫する。 ・歴史への興味・関心によって、理解度にも2極化がみられるので、歴史に興味・関心がもてるような指導や学習環境づくりを工夫する。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	83.1	76.2	72.9
	量と測定	77.3	73.6	70.6
	図形	75.0	76.0	72.1
	数量関係	72.2	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	68.1	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	83.2	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	75.8	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

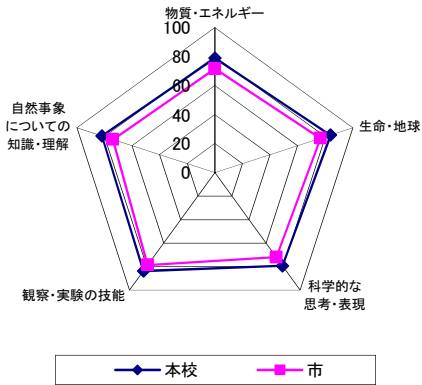
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の平均正答率は83.1%と市の平均を6.9ポイント上回った。 ○小数の除法の文章問を表した図を選ぶ問題では、正答率が92.3%と高く、市を13.5%上回っており、図を使って小数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題でも正答率74.4%で市の平均を15.2%上回っている。数直線を活用して学習を繰り返した指導の表れと思われる。 ●活用問題で、答えは求められたが理由を答えられなかった児童が多かった。	・今後も数直線を活用し、何を求めようとしている計算なのかを明確にしたうえで計算に取り組ませる指導を継続していく。 ・どのような思考順序で解答に至ったのかを明確にし、それを文章で説明する学習を多く取り入れ、思考を文章化する能力を育む。
量と測定	・本校の平均正答率は77.3%で市の平均を3.7ポイント上回った。 ○直径が与えられた円の面積を求める式を選ぶ問題は正答率が100%だった。 ○速さに関する問題も正答率89.7%で市を10.8%上回っている。 ●単位量あたりの大きさの理解度が低く、30.8%の正答率だった。	・単位量という概念について補充学習を行う。 ・数直線を利用して、未知数が何に当たるのかを十分理解させ、立式できるようにする。
図形	・本校の平均正答率は75.0%で市の平均より1ポイント下回った。 ○三角形の作図に関する問題では94.9%の高い正答率だった。 ●平行四辺形が線対称・点対称のどれに当たるかの設問では、市の平均を5.4% 下回った。	・正方形・長方形・台形・平行四辺形・ひし形などの四角形が、それぞれ線対称・点対称のどれに当たるかの学習を復習し、定着を図る。
数量関係	・本校の平均正答率は72.2%で市の平均より0.4ポイントと僅かだが上回った。 ○文字を使った式と比例の関係を式に表す設問は、どちらも94.9%の高い正答率だった。 ●割合と比に関する正答率は二つの設問ともに市の平均を下回り、特に比は理解度が低く、20.5%の正答率だった。	・比の概念について補充学習を行うとともに、個別学習を十分に行い、定着させる。 ・数直線を利用して未知数が割合・比べられる量・もとにする量のどれに当たるのかを十分に理解してから立式できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	78.8	71.6	67.4
	生命・地球	83.9	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	79.4	72.1	68.8
	観察・実験の技能	83.8	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	81.8	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は78.8%で、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ○ふりこのはたらきに関する問題では、全ての設問において市の平均を15ポイント～28ポイント上回っており、活用の問題において顕著だった。 ○物の燃え方に関する問題でも、全ての設問において市の平均を上回っており、十分な定着が見て取れる。 ○水溶液の性質に関する問題では、どの問題でも、正答率が市の平均を10ポイント以上上回っており、予想、実験、結果、考察についてそれぞれ考えさせた授業の成果や、得られた知識が定着するよう整理してまとめた学習の成果が表れた。 ●物のとけ方に関する問題では、実験道具の正しい使い方について、市の平均を下回っている問題があった。	・学習した内容を、日常生活の物質に置き換えたり、具体的な出来事との関連を考えさせたりして、事象の仕組みや関係を考えさせていく力を育成していく。 ・知識的な分野での正答率の個人差が目立つ。各単元ごとに確認する時間を設け、十分身につくようにしていく。 ・実験の道具の使い方や流れ、方法などを繰り返し確認しながら実験する。 ・今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図ると同時に、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れながら、科学的思考を養っていく。
生命・地球	・平均正答率は83.9%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○生命・地球の領域においては、ほぼすべての設問において市の平均を上回っており、平均的に定着が図れていることがわかる。 ○植物のつくりとはたらきに関する問題では、正答率が100%と全員が理解できていた。 ○月と太陽に関する問題では、月の見え方から位置関係を調べる活用問題において正答率が高い。 ●動物のからだのつくりとはたらきにおける、だ液のはたらきを問う問題では、正答率の低い問題もあり、十分理解できていなかった。	・体の仕組みにおいて、消化器官に関する知識を十分身につけられるよう、デジタル教材や、図鑑等を活用し、理解を深めさせていきたい。 ・授業において、ミニテストを行いながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていくと同時に、自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力の育成に努め、各観点での定着度の底上げをする。

宇都宮市立昭和小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあてと振り返りの充実	十分満足な姿を見童に意識させるために、めあてに吹き出しとして付け加えている。 振り返りの時間を十分確保し、振り返りの内容も校内研修等で検討し、よりよいものとなるようにしている。	めあてと振り返りを一体化し、学校全体で共通認識をもちながら取り組んでいくことで、児童にも振り返りが定着し、学習の中で自分が学んだことや身に付けたことを十分理解できるようになり、それが学習結果にも表れている。
家庭学習の充実	年2回の学力アップ月間に家庭学習の記録を付けたり、自主学習の充実を図るための取り組みをしたりしている。	家庭学習の習慣化が図られ、内容も充実してくることで、学習内容の復習や予習の時間が確保され、学習内容の定着に個人差が少なくなっている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学校全体で学習に対する意識の高まりは出てきたが、学習内容の定着において個人差や二極化が見られる。それを改善するには、やはり学習に対する意欲をもたせることが大切であると考える。これまでの指導を継続しつつ、次年度はやればできるというスモールステップの目標設定や、学習したことを認め励ますなど自己肯定感を高める指導の工夫を学校全体で考えていきたい。
--